

5 海区別の取組方針

各海区の海況や地域の特徴に応じた主要漁業ごとの課題解決に向けた主な取組と海区ごとの指標

1 西彼海区

漁業種類	主な取組
中・小型まき網漁業	①餌として利用されている小型魚の有効活用 ②漁獲物の高鮮度化・漁獲物選別の効率化
刺網漁業	①抱卵イセエビの再放流による資源の維持・増大 ②飲食店との漁獲物の直接取引
養殖業	①養殖魚のブランド化 ②漁船漁業との複合経営を促進
水産加工業	①加工業者の協業化促進 ②新規加工商品の開発

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
海面漁業生産量	11,956トン	12,024トン
海面養殖業生産額	5億円	6億円
漁業就業者数	910人	760人
新規漁業就業者数	5人	8人
雇用改善経営体数	—	3経営体

海区独自

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
漁獲物販売促進のためのイベント参加	2回 (H26)	4回
養殖魚のブランド化	— (H26)	2件
低・未利用資源の加工原料化	— (H26)	2種



イセエビ漁

2 大村湾海区

漁業種類	主な取組
小型底びき網漁業	①種苗放流、総量規制等の資源管理、投石等の漁場造成によるナマコ資源の増殖 ②出荷時期の調整による価格向上
養殖業	①販路開拓による多様な売り先の確保 ②貝類養殖への新規参入促進

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
海面漁業生産量	1,630トン	1,638トン
海面養殖業生産額	8億円	10億円
漁業就業者数	1,304人	1,090人
新規漁業就業者数	9人	7人

海区独自

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
藻類養殖導入件数	1件 (H26)	2件
養殖魚のブランド化	— (H26)	2件
カキ養殖経営体数	57件 (H26)	59件



カキ殻を利用したナマコの天然採苗

3 橘湾海区

漁業種類	主な取組
漁船漁業	①海底耕耘等による漁場機能の回復 ②ヒラメ、クマエビ等の放流適地への大型サイズ種苗の放流
養殖業（全体）	①養殖飼育作業のグループ化や飼料の改良等によるコスト削減など
トラフグ養殖業	①身欠きふぐの販売等による高付加価値化 ②赤潮観測体制の強化
カキ養殖業	①生食用販売促進など販売単価向上の取組

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25（基準年）	H32（目標年）
海面漁業生産量	6,520トン	6,555トン
海面養殖業生産額	21億円	22億円
漁業就業者数	924人	780人
新規漁業就業者数	4人	6人
雇用改善経営体数	—	2経営体

海区独自

指標名	H25（基準年）	H32（目標年）
沿岸漁業生産量 （中・小型まき網除く）	2,158トン	2,168トン
イワガキ養殖	2経営体（H26）	14経営体



カキの水揚げ体験

4 有明海海区

漁業種類	主な取組
漁船漁業	①海底耕耘等による漁場機能の保全・回復 ②有明海の海域特性に合った放流事業の推進
貝類養殖	①アサリ漁場の底質改善 ②アサリ垂下式養殖等の取組、カキの養殖技術の高度化
藻類養殖	①ヒジキの養殖の取組

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
海面漁業生産量	2,053トン	2,062トン
海面養殖業生産額	4億円	5億円
漁業就業者数	1,168人	980人
新規漁業就業者数	6人	7人

海区独自

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
放流による漁獲増	117.9トン (H26)	137.5トン
垂下式養殖によるアサリ生産量	11トン (H26)	30トン
養殖ヒジキ生産量 (乾燥)	4.7トン (H26)	5.2トン



アサリ垂下式養殖試験

5 県北海区

漁業種類	主な取組
中・小型まき網漁業	①アジ類・サバ類の養殖用種苗採捕 ②拠点市場の水揚機能等の強化
沿岸許可漁業 (刺網、ごち網など)	①漁獲物取扱改善・活魚出荷による付加価値向上 ②水産物流通施設や直売所等の共同利用施設の整備 ③漁業許可制度の見直し
定置網漁業（大型定置、小型定置）	①就労環境の改善による定置従事者の確保、観光等他の産業との連携
ブリ類・マダイ養殖	①出荷先のニーズに合わせた身質改善 ②加工業者等との連携による生産体制の再構築
トラフグ養殖	①自主的な生産調整による収益性重視の生産体制の構築 ②観光・飲食・流通業界と連携した新たな販路の開拓
カキ養殖	①マガキとイワガキの養殖を組み合わせた周年出荷体制の確立と消費拡大
水産加工業	①拠点市場と連携した生産・加工・販売体制の構築、高度な衛生管理体制の整備による海外市場への輸出拡大

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25（基準年）	H32（目標年）
海面漁業生産量	73,679トン	74,532トン
海面養殖業生産額	98億円	110億円
漁業就業者数	3,745人	3,140人
新規漁業就業者数	26人	55人
雇用改善経営体数	—	10経営体

海区独自

指標名	H25（基準年）	H32（目標年）
水揚機能等を向上させた市場数	—（H26）	3件
HACCP等認定加工場数	4件（H26）	5件
トラフグ加工品の加工場出荷額	228百万円（H26）	342百万円
カキ生産量	447トン（H26）	550トン



トラフグの加工場

6 五島海区

漁業種類	主な取組
漁船漁業（ひき縄、一本釣など）	①漁獲物の鮮度保持や神経締め技術の習得・向上によるブランド化
定置網漁業	①活魚出荷や鮮度保持など流通体制の改善や短期養殖の取組
養殖業	①魚類養殖と貝藻類養殖との複合養殖の取組 ②地元漁業との連携による養殖餌料用原料の安定確保

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25（基準年）	H32（目標年）
海面漁業生産量	13,407トン	14,243トン
海面養殖業生産額	57億円	71億円
漁業就業者数	2,292人	1,920人
新規漁業就業者数	20人	26人
雇用改善経営体数	—	10経営体

海区独自

指標名	H25（基準年）	H32（目標年）
神経締めの技術者育成数 （五島市地域、定置網含む）	—（H26）	30人
改良・改善した定置漁場の数	—（H26）	5箇所
魚類養殖と貝・藻類養殖の複合養殖の漁場数	—（H26）	6箇所



アオサ養殖の導入

7 沓岐海区

漁業種類	主な取組
いか釣漁業	①イカゲソミンチ等の一次加工推進による魚価の安定・向上 ②漁業種類の多角化による経営安定化
釣漁業	①サワラ等のブランド化や一次加工推進による魚価の安定・向上
定置網漁業	①体験型の観光定置の取組
採介藻漁業	①未利用資源であるアカモクを活用した所得向上
養殖業	①海外も含めた販路開拓・確保と自営養殖・加工・販売による働く場の確保
観光業との連携	①各漁協による地域資源を活かした漁業体験等コンテンツの強化

【指標一覧】

海区共通

指標名	H 25 (基準年)	H 32 (目標年)
海面漁業生産量	5,432トン	5,522トン
海面養殖業生産額	16億円	20億円
漁業就業者数	1,122人	940人
新規漁業就業者数	11人*	10人
雇用改善経営体数	—	5経営体

* H24～26の新規漁業就業者数の平均は9人

海区独自

指標名	H 25 (基準年)	H 32 (目標年)
経営セミナー・経営診断を受けた漁業者数	— (H26)	20人
経営改善計画を策定した漁業者数	— (H26)	5人
観光メニュー数	3メニュー (H26)	6メニュー



定置網漁業の操業

8 対馬海区

漁業種類	主な取組
釣漁業	①クロマグロ資源管理の徹底 ②アカムツ、アマダイ、タチウオなどの鮮度保持、ブランド化による魚価向上
いか釣漁業	①漁獲物の規格統一、取り扱いのマニュアル化による価格向上 ②藻類養殖などとの多角経営や法人化
定置網漁業	①島内スーパー、飲食店等のニーズ把握による地産地消の推進 ②低・未利用の漁獲物の新規加工品の開発や養殖用種苗への活用
採介藻漁業	①直接取引、ネット販売や輸出などの新たな販路拡大等の取組
クロマグロ養殖業	①餌料安定供給体制の構築 ②養殖漁場の環境改善や魚病対策の取組
真珠養殖業	①照りが良い真珠の出現率を高める養殖方法の開発・普及
流通・加工	①島内の小売店、飲食店、宿泊施設等への供給体制構築 ②韓国向けの効率的な輸出の展開

【指標一覧】

海区共通

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
海面漁業生産量	15,494トン	15,853トン
海面養殖業生産額	70億円	86億円
漁業就業者数	2,845人	2,390人
新規漁業就業者数	55人	61人
雇用改善経営体数	—	5経営体

海区独自

指標名	H25 (基準年)	H32 (目標年)
経営改善計画策定数	— (H26)	6件
経営診断数	— (H26)	20件
養殖クロマグロ生産額	4,210百万円	4,740百万円
真珠養殖生産額	2,334百万円	2,850百万円
長崎県の魚愛用店舗数	7店 (H26)	18店
島内加工業者の平成「長崎俵物」販売額	13,922千円 (H26)	15,500千円



アカムツの水揚げ